

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200217		
法人名	医療法人 三愛		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	三重県三重郡菟野町大字宿野字神明田325		
自己評価作成日	平成 24 年 7 月 20 日	評価結果市町提出日	平成24年10月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2472200217-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2472200217-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 8 月 1 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で、その人らしい暮らしが続けられ、「居心地の良い空間」また「自信を回復できる場所」であることを大切にしていきたいと考えています。日々の生活においても、本人が主体的な決定を行え、尊厳を保ちながら、安心して暮らせるような環境づくりに努めます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ひだまりは菟野町の南東部に位置し、西は鈴鹿山脈御在所岳を望め、周辺はショッピングセンターなどの商業地や田園が広がる、平屋建ての2ユニットのグループホームである。母体の医療法人、老健施設が幹線道路を隔ててあり、医療面など連携よく運営がされている。施設長はじめ、介護職員が全員女性からか、言葉遣いは優しく、きめの細かさを感じる事業所である。利用者が穏やかに落ち着いている様子から、安心した介護を受けているのが伺える。町内にある他のグループホームと運営推進会議に出席しあって交流を深めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝8時に夜勤者を除き、日勤者、早番、管理者と5名で運営理念の唱和を行い、理念を共有し実践につなげている。	昨年度の外部評価で、理念を毎日唱和をすることを勧められ、以後、朝申し送り時に唱和を実行している。毎日の仕事始めに、唱和をすることで、理念を各自が自覚し、介護の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長、民生委員と定期的な話し合いを持ち、また地域の行事にも参加できるように交流している。	自治会に加入し、「お知らせ版」など広報誌も届く。町社協に登録したボランティアが定期的に訪れ、利用者との交流がある。去る7月29日(日)に、ホームで開催した夏祭りには総勢80人ほどの方々が集まり交流した。	
※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページ <a href="http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2472200217-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2472200217-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>			町社協に登録の認知症傾聴ボランティアやヘルパー2級の実習生を受け入れ積極的に地域貢献に努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を行い日頃の利用者の様子、サービスの実際等担当職員と家族の交流の時間をもうけて家族の要望や意見を聞き、サービスの向上に活かしている。	年6回の開催をめざして取り組んでおり、行政の協力のもと、日曜日に開催がされている。利用者の家族全員、全職員に参加を呼びかけ出席率もよく、町内の他のグループホームからの参加もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から問題が生じた場合には必ず連絡し指導を仰いでいる。また、問題のない時も運営推進会議やモニター会議でサービスの取り組み等報告している。	行政の担当者とは何でも相談ができ、その都度電話や庁舎へ出向き相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	積極的に研修会や系列の老健で行われている勉強会にも参加して学んできたことを職員全員に周知徹底し拘束しないケアに取り組んでいる。	同一法人内の老健施設で行われる拘束についての勉強会に参加、拘束の弊害について認識をしている。現在、拘束にいたる利用者はいない。玄関先で不穏な行動があれば、本人が納得するまで、職員が同行する支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営理念にもかかっている、暴力や虐待及び身体的精神的拘束は行はないという共通の認識を職員全員が持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に擁護委員を招き運営推進会議で話し合った。最近では積極的に勉強会に参加し成年後見制度を必要とする家族の相談を受けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者が充分納得されるまで話し合いを持ち不安や疑問点が解決するまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者や家族とは何でも話せる信頼関係を築けるよう心がけている。言いづらい事は第三者委員をたて、苦情の申し出がしやすい環境作りに努めている。	運営推進会議に家族の参加を得て、話す機会は多い。第三者委員(区長、民生委員)を設け、苦情等意見を聞くシステムを構築している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を持ち自由に意見が言えるような雰囲気作りに努め、そこで出た意見や提案を日々の支援に反映させている。	ユニット毎に月に1回、ミーティングが開催され、意見交換される。昨年、導入した「くもん学習療法」は職員間で討議され、現在据置中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には日頃の状況を報告し、職員の要望や意見、やりがい等を理解してもらえるように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者にはより良い日々のケアに生かせる研修や勉強会に参加できるような職場環境になるよう理解や協力を求めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの運営推進会議に毎回参加し交流する中でより所を学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人の困っている事、不安なことなど思いを受け止め安心されるまで話し合いを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時には十分な時間をとり本人や家族の不安や要望などに耳を傾け安心して入居できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を聞き、状況を把握し必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を一人の家族として接しており一緒に家事をしたり、会話をしたりして、共有する時間を大切に、共に支え合い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に面会に来ていただけるような雰囲気作りをし、面会時にはゆっくり過ごしていただけるように配慮している。また、積極的に情報交換を行い、双方の要望や意見を取り入れられるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会があった場合は心地よく過ごせるように配慮している。また、家族や友人の協力も得ながら馴染みの娯楽施設、お店などへ外出していただき関係が途切れないように努めている。	友人の面会は頻繁にあり、馴染みの美容院へ行くなどの支援もしている。また、利用者同士が顔なじみで、ホームの中で同窓会も開かれる。近くのコマダ珈琲店へは毎週出かけており、そこでの常連さんと馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように配慮し見守り声掛けを行っている。また、利用者同士が誘い合い一緒に歌ったり、談笑したりと良い関係が保たれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話をよく聞き、本人の気持ちに添えるよう努めている。また、話が困難な方は、ご家族から情報を得たり、表情や体調をよく観察し職員間で話し合う。	寄り添い、動作や表情からくみ取っている。また、入浴は職員と1対1になる時で、本音で話を聞ける。その思いは日誌や連絡帳で記録し、職員で共有する。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から話をお聞きすることで生活歴や暮らし方把握するように、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に合った生活リズムを大切にして、体調の変化を観察し個人日誌に目を通し、変化があった場合は速やかに対応するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、また状況に応じて職員間でミーティングを行い、2ヶ月に一度の運営推進会議で家族より意見などを聞き、介護計画の作成に反映させている。	利用者に対し、職員が担当制になっている。担当の職員は、家族や本人の意向を聞き、プランを立て、ミーティングで検討がされ、計画作成担当者と一緒に介護計画書が作成される。3か月に1回の見直しがされている。	ミーティングで検討されたモニタリングが記録されていないので、計画書の運動性がわかりにくい。モニタリングは日付とともに記録をされるよう期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌に記録したり職員間の申し送りを。また一枚のメモ用紙に職員全員が個々にケアしたことや気づいたことを記入することで情報を共有し実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や他の施設関係者、福祉関係者、地域の方々を交えて推進会議を開催し、入居者や家族が安心できるより良い支援をめざしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺に大型スーパー、飲食店などがあり、いつでも買い物を楽しめるよう支援している。また、月に一度のお出かけの時には外食をして豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向を聞き、かかりつけ医の受診を支援している。また、協力病院と連携しながら、適切な医療を受けられるように支援している。	母体の医療法人とは医療連携をして、24時間いつでも対応が可能である。母体の医療機関への受診はホームで支援がされる。他のかかりつけ医への通院は家族にお願いをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力病院の看護職には情報や気づきを詳細に伝え 相談しながら適切な医療や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療できる様にしている。退院に関しては認知症の為早期退院の例が多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については入居時から話し合っている。重度化した場合は 介護 家族 医療とともに話し合い 方針を共有しながら 良い終末を迎えられるようチームで支援に取り組んでいる。	利用開始時に「重度化した場合における看取り介護指針」に基づき説明がされている。重度化し、医療行為が伴う、入浴が難しいなど不具合が生じたら医師や家族とその都度相談し、対応をしていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが 急変や事故発生に備えて 初期対応の方法の実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	区長、民生委員とも話し合い避難方法を確認している。月に一度の避難訓練で職員全員が安全対策を見に付け地域との協力体制を築いている。	毎月1回防災訓練を実施している。また、毎日、利用者は、朝の体操終了後防災ズキンを被る訓練をしている。本年2月の運営推進会議時に、家族などの参加を得て避難訓練を実施した。スプリングクラーの工事も終了している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ親しみ過ぎている中でも尊敬の気持ちを持ち、挨拶や声かけをし、言葉使いに気をつけ、またプライバシーに配慮した対応に努めている。	丁寧な物腰での対応が行き届いている。プライバシーにかかわる個人記録などは事務所で保管がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日常生活の中で会話を持ち、個人対応することで個々の思いを言い易いように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調管理の方が優先されることが多くなってきているが、一日の生活の流れは利用者のペースに合わせている。利用者の意思を尊重し、反映できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の体調や目的に応じて自由に身だしなみやおしゃれを楽しんで頂けるよう利用者の意見を尊重し、添うようにさりげなく支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好み調理方法を利用者に教えて頂いたりして食事に対する関心を持って頂いている。また、準備や片づけを皆さんで協力してやって頂くことにより楽しい雰囲気になっている。	あらかじめ献立を決めておくのではなく、冷蔵庫の中の物や畑で採れた野菜を食材にするなど臨機応変に献立をしている。ただし、栄養のバランスは一方に偏らぬよう配慮がされている。職員が話しかけながら、和やかな食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して栄養バランスを考え、メニュー記録表を参考にしながら献立を工夫している。体調に応じて栄養補助食品、お好みの飲み物などを摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりのできる力、その日の気分や状態に合わせて見守りや介助をし、無理のない形で口腔内を清潔にして頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや習慣を知り、またプライバシーに配慮し見守りや介助時している。紙パンツやパットの使用は本人の意思を尊重して排泄の支援をしている。	紙パンツやパットを使用しながら、トイレでの排泄を支援している。夜間のみポータブルを利用する方もある。居室からは概ね3人に1つのトイレが設備されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や排便を促す効果のある食品を摂って頂き、便秘の予防や改善に努めている。また、長期便秘の方には医師の処方された内服薬を飲んで頂いている。また戸外を散歩するなど運動にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や希望に合わせた入浴ができるよう努めている。また入浴時にはゆっくりとした時間が過ごせるよう支援している。	日曜日と各ユニット毎で週1回、お休みにしているが後はお風呂を沸かしている。浴槽は、ヒノキ造りになって、広い浴室である。午後の時間帯が入浴となっており、現在、拒否する方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者の体調や希望に合わせてTVや新聞を見たり、音楽を聴いたり、居室で過ごして頂いたり、休息がとれるようにし生活のリズムが整うよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は医師の処方された薬を適切に服用していただいている。また薬の説明書を読み理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常会話の中から、好きなこと得意なことを見つけ出し、一緒に行うことで楽しんだり気分転換をして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や希望にそって散歩をしたり玄関先で過ごしたり、また可能な限り買い物やドライブに出かけられるよう支援している。また、ご家族の協力を得て外出して頂いている。	各ユニット毎の建物中央に中庭がある。ウッドデッキになって出入りが自由でいつでも外の空気に触れることができる。四季折々、花見にドライブにでかけたり、買い物や外食、モーニングで喫茶店へ出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金は、すべて事務所で管理し必要に応じていつでも使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話を希望されたり、いただきものをした時などは本人自ら電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は季節感、生活感を取り入れた物を利用者と共に作り飾ることで季節を感じ、また家庭的な雰囲気を楽しんで頂けるよう工夫している。また清潔を保ち室温や安全面などにも配慮しながら、いつでも居心地良く過ごせるよう工夫している。	回廊式のゆったりした廊下、掘りごたつのある和室、事務所をはさんで左右に分かれたユニットで利用者同士の交流が頻繁にされている。廊下には3人掛けのソファが置かれ、玄関にもベンチがあり自由に過ごせるよう配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や和室などにはソファや椅子を置き利用者の体調や気分に応じて過ごして頂けるようにし工夫し、時には気の合った利用者同士が談笑したり歌ったりして思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室にはご家族の協力も得て、使い馴れた物や思い出の物を飾り、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	各居室には洗面台が設備されており、窓が掃出し式なので明るい印象を受ける。ナースコールが設置され、用があればすぐに職員がかけつけている。自宅から家具など持ち込まれ、思い思いの居室になっている。掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所には手すりを設置し廊下は十分な広さがあり歩行器やシルバーカーなどでも移動がしやすく、またトイレや浴室などに表示をし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		